

鎮守の森復活志し10年

小野市下住町、**歙溪**神社境内に鎮守の森を復活させようと、同市来住町の宮脇昌三さん(60)らが実行委員会をつくり、活動を続けている。森づくりを志して今年で丸10年。これまで約2万本の木を植え、かつて採石が行われ草木が少なくなっていた部分が、緑で覆われるようになった。(高田康夫)

2万本植林緑に覆われ

2003年、植物生態学者、宮脇昭さんの講演を聞いたのがきっかけ。土地の植生に合った森の再生を目指し、数千

万本もの木を国内外に植えているという活動内容や「人類は森の寄生虫である」と話す言葉に、宮脇さんは感銘を受けたという。

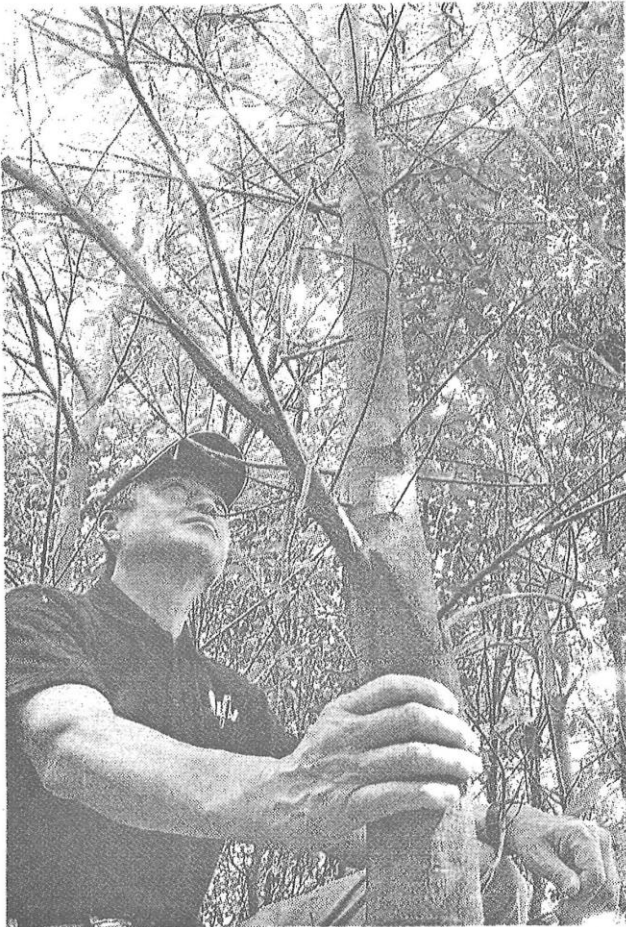
同神社の氏子でもある宮脇さんは、採石場だった境内の一部に、鎮守の森を復活させようと計画。05年から宮脇昭さんのように、植生に応じたヤマザクラやアラカシなど約50種の木々を一緒に植える方法で毎年、数千本の苗を植え続けている。

植える作業は、地元の保育

小野・歙溪神社 宮脇さんら活動

園児らに手伝ってもらう。毎年4月に保育園に声を掛け、子どもと一緒に取り組む。3

園児らに手伝ってもらう。毎年4月に保育園に声を掛け、子どもと一緒に取り組む。3譲り受けている。05年に植えた木々は5歳ほどに成長し、岩肌が見えていた場所は緑で覆われるようになった。「人間は森がなくては生きていくことができないと知ることができたのではないかと宮脇さん。「大人になってからもささへの思いが残るよう、これからも子どもたちに植えてもらいたい」と協力を呼び掛けている。



森づくりに取り組む宮脇昌三さん。当初に植えた木々は約5歳にも育つ。小野市下住町